

# お知らせのページ

国立研究開発法人土木研究所

## 令和7年度国立研究開発法人土木研究所交流研究員の受入れについて

国立研究開発法人土木研究所では、令和7年度の交流研究員受入れ募集を行います。

交流研究員制度は、国内の他機関に所属する職員等を土木研究所に受け入れる制度であり、土木技術水準の向上や、土木研究所と派遣元双方の業務の質の向上に資することを目的としております。土木研究所は研究活動を通じて交流研究員の指導を行います。

申請手続き及び受入れ可能な課題は下記の通りです。

### 記

1. 受入れ開始日 令和7年4月1日以降
2. 受入れ期間 6ヶ月以上・2年以下（最長3年まで延長する場合有り）
3. 申請締切日 令和7年1月10日（金）17:00まで（必着）
4. 応募資格 経験年数4年以上（修士の場合2年以上）の職員を対象とします。
5. 受入れ課題 別紙「令和7年度交流研究員受入れ課題一覧」のとおり。
6. 受入れ費用 受入れに要する費用（給与、旅費等）は申請機関の負担とします。
7. 申請  
ホームページに掲載している以下の書類に必要事項を記入のうえ申請願います。
  - ・交流研究員受入れ申請書（様式-1）
  - ・交流研究員人事記録（別紙）

<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/ukeire/index.html#06>

※申請書類にご記入頂いた個人情報については、交流研究員受入れ事務以外の目的で使用することはございません。

※国立研究開発法人土木研究所交流研究員受入れ規程  
国立研究開発法人土木研究所交流研究員受入れ取扱要領  
<https://www.pwri.go.jp/jpn/employ/ukeire/pdf/kouryuu.pdf>
8. その他
  - ・受入れ決定は2月中旬～下旬頃の予定
  - ・受入れ課題名等は現時点での予定のため変更になる場合があります。
  - ・一つの研究チームに希望者が集中した場合等は、チームの指導可能人数や交流研究員制度の趣旨を踏まえ、調整させていただく場合があります。
  - ・民間会社等から交流研究員を受入れた場合、交流研究員の申請機関は受入れチーム等（上席研究員単位で判断）における契約の相手方となることができません。このため、受入れチーム等における業務発注等の入札等に参加できませんので予めご了承ください。（受入れ期間中のみ）
  - ・受入れ開始日は令和7年4月1日からとじていますが、4月以降で受入れを希望される場合は個別にご相談ください。
9. 提出・問合せ先 国立研究開発法人土木研究所 企画部研究企画課  
交流研究員受入担当  
〒305-8516 茨城県つくば市南原1番地6  
TEL：029-879-6751 FAX：029-879-6752  
URL：<https://www.pwri.go.jp/>

令和7年度交流研究員受入れ課題一覧

別紙

番号	受入れ部署		課題名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
1	戦略的イノベーション研究推進準備事務局	戦略的イノベーション研究推進準備事務局 (勤務先：東京都千代田区神田相生町1秋葉原センタープレイスビル4F)	SIP スマートインフラマネジメントシステムの構築に関するプロジェクトマネジメント
2	技術推進本部	先端技術	自動施工に関する技術開発（自律施工技術基盤「OPERA」の開発含む）と、現場適用に関する研究
3	技術推進本部	先端技術	災害対応に用いる無人化施工の高度化に関する研究
4	技術推進本部	先端技術	土木機械設備に関する維持管理の効率化・高度化に関する研究
5	技術推進本部	先端技術	土木機械設備に関する信頼性向上及び遠隔化・自動化・集中管理に関する研究
6	技術推進本部	先端技術	インフラ管理システムの高度化に関する研究
7	地質・地盤	地質	地質・地盤リスクマネジメントに関する研究
8	地質・地盤	地質	自然由来重金属等含有岩石の有効利用に関する研究
9	地質・地盤	地質	河川堤防基礎地盤の浸透安全性に関する研究
10	地質・地盤	地質	ダム等の岩盤評価に関する研究
11	地質・地盤	地質	河川堤防および基礎地盤の内部構造探査に関する研究
12	地質・地盤	地質	物理探査による斜面、盛土および土木構造物内部の地下水および剛性の把握に関する研究
13	地質・地盤	地質	道路斜面災害危険箇所抽出・評価手法に関する研究
14	地質・地盤	地質	物理探査による舗装道路およびコンクリート構造物内部の水分分布の把握に関する研究
15	地質・地盤	地質	貯水池地すべりの安全性評価に関する研究
16	地質・地盤	土質・振動	河川構造物の越流・浸透・耐震・維持管理に関する研究
17	地質・地盤	土質・振動	液状化に関する地盤調査法および構造物への影響評価法に関する研究
18	地質・地盤	土質・振動	高品質な盛土の整備・建設発生土の有効利用等に関する技術開発
19	地質・地盤	土質・振動	切土のり面のリスクマネジメントに関する技術開発
20	地質・地盤	施工技術	道路の擁壁、補強土壁等の調査、設計、施工、維持管理の手法に関する研究
21	地質・地盤	施工技術	道路排水施設の設計、施工、維持管理手法に関する研究
22	地質・地盤	施工技術	デジタル技術の活用による盛土材料の変化の客観的評価手法に関する研究
23	地質・地盤	施工技術	軟弱地盤対策等における調査、設計、施工、維持管理手法に関する研究
24	地質・地盤	施工技術	グラウンドアンカーの維持管理手法に関する研究
25	地質・地盤	施工技術	道路土工構造物の不確実性を考慮したマネジメント手法に関する研究
26	流域水環境	流域生態	河川管理の現場における環境DNAの高度利用および技術の標準化に関する研究
27	流域水環境	流域生態	生態系ネットワークを考慮した流域環境の保全手法に関する研究
28	流域水環境	流域生態	河川環境管理分野への航空レーザ測量データ等の活用に関する研究
29	流域水環境	流域生態	治水と環境の両立した河道設計のための解析手法に関する研究
30	流域水環境	流域生態	魅力ある持続的な水辺空間形成に関する研究
31	流域水環境研究グループ	水質	水環境中の新規汚染物質の影響把握および低減技術に関する研究
32	流域水環境研究グループ	水質	水環境中の化学物質のモニタリング手法の効率化に関する研究
33	流域水環境研究グループ	水質	水環境監視におけるリモートセンシング、ドローン等の活用に関する研究
34	流域水環境研究グループ	水質	AI技術や次世代センサーを活用した水質測定・評価技術に関する研究
35	流域水環境研究グループ	水質	水環境中のウイルス等の病原微生物の監視・制御技術に関する研究
36	流域水環境	自然共生研究センター (勤務先：岐阜県各務原市川島笠田町官有地無番地)	DXを用いた河川環境の把握・目標設定・予測技術に関する研究
37	流域水環境	自然共生研究センター	気候変動を見据えた流量の変動管理手法に関する研究

番号	受入れ部署		課題名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
38	流域水環境	自然共生研究センター	半自動化による河道設計の迅速化に関する技術開発
39	流域水環境	自然共生研究センター	ダム下流における流量変化が付着藻類・底生動物・魚類に及ぼす影響の予測技術に関する研究
40	流域水環境	自然共生研究センター	河川景観に馴染む護岸ブロック判定に関する技術開発
41	流域水環境	自然共生研究センター	流域スケールでの生物多様性の評価とグリーンインフラの導入に関する研究
42	河道保全	水工	ダム構造物に関する3次元数値解析手法の開発
43	河道保全	水工	ダム貯水地内堆砂管理手法の開発
44	河道保全	水工	河川橋梁橋脚の洗掘現象を対象とした点検・診断・措置の充実化
45	河道保全	水工	土砂バイパストンネル内の土砂流下によるコンクリート損傷対策技術に関する研究
46	河道保全	水工	河川横断構造物（固定堰、床固など）の設計・施工過程の合理化における三次元河床変動解析方法に関する研究
47	河道保全	河道監視・水文	洪水流量の推定技術に関する研究
48	河道保全	河道監視・水文	流出解析の高精度化に関する研究
49	河道保全	河道監視・水文	流量観測の高精度化に関する研究
50	土砂管理	火山・土石流	大規模噴火による長期にわたる広域降灰時の土石流影響評価に関する研究
51	土砂管理	火山・土石流	災害直後の砂防施設の自動点検手法に関する研究
52	土砂管理	火山・土石流	土石流により流送される流木の流出率の変化に関する基礎的研究
53	土砂管理	地すべり	人的被害をもたらす崩壊性地すべりの予測手法に関する研究
54	土砂管理	地すべり	変位速度を指標とする地すべり対策計画手法に関する研究
55	土砂管理	地すべり	3次元浸透流解析による地すべりの地下水排除工の効果予測手法に関する研究
56	土砂管理	雪崩・地すべり研究センター (勤務先：新潟県妙高市 錦町2丁目6番8号)	斜面对策施設の雪崩への効果も評価した雪崩災害ハザードエリア評価技術の開発
57	土砂管理	雪崩・地すべり研究センター	斜面对策施設の雪崩への効果も評価した雪崩災害ハザードエリア評価技術の開発
58	土砂管理	雪崩・地すべり研究センター	雪崩対策施設（防護工）の健全度を評価する手法に関する研究
59	道路技術	舗装	舗装構造の健全性に着目した点検技術の信頼性向上に関する研究
60	道路技術	舗装	舗装の損傷原因に応じた長寿命設計・更新技術に関する研究
61	道路技術	舗装	アスファルト舗装における理論的構造設計手法の現場実装に向けた研究
62	道路技術	舗装	脱炭素社会の実現に向けたアスファルト舗装代替材料の開発
63	道路技術	舗装	社会構造の変化に対応した新しい舗装再生技術の開発
64	道路技術	舗装	コンクリート舗装の長寿命化に向けた構造細目に関する検討
65	道路技術	トンネル	山岳トンネルの施工時データを活用した合理的な診断に関する研究
66	道路技術	トンネル	山岳トンネルのインバートの合理的な設計手法に関する研究
67	道路技術	トンネル	トンネルの補修・補強工法の耐荷力特性等の評価手法に関する研究
68	道路技術	トンネル	山岳トンネルの二重支保工の設計に関する研究
69	道路技術	トンネル	既設トンネルの変状を診断するエキスパートシステム構築に関する研究
70	道路技術	トンネル	シールドトンネルの点群時データ等を活用した合理的な維持管理に関する研究
71	水災害	リスクマネジメント	民間企業における防災投資促進のためのリスクコミュニケーション手法の開発
72	水災害	リスクマネジメント	仮想洪水体験システムを用いたリスクコミュニケーション手法の開発
73	水災害	リスクマネジメント	不確実性を付した洪水予測情報発信手法の開発
74	水災害	ハザード	洪水予測に基づく既設ダム等の治水機能の強化・発現に関する研究
75	水災害	ハザード	流域治水の計画策定支援技術の開発
76	水災害	ハザード	中小河川から中下流域における土砂・流木・洪水氾濫等ハザード想定技術の開発
77	橋梁構造	基礎班	多様な現場条件に対応した道路橋基礎の耐震補強技術に関する研究
78	橋梁構造	基礎班	地盤改良工法の要求性能に対する評価手法に関する研究

番号	受入れ部署		課題名
	局・部・グループ	チーム・班・担当	
79	橋梁構造	基礎班	河川洗掘に対応した橋梁下部構造の予防保全型メンテナンスに関する研究
80	橋梁構造	基礎班	基礎地盤の変状を考慮した橋台の設計法に関する研究
81	橋梁構造	基礎班	新技術導入に対応した基礎の性能検証方法構築に関する研究
82	橋梁構造	耐震班	リスクマネジメントに基づく道路橋の耐震設計法に関する研究
83	橋梁構造	耐震班	上部構造の塑性化を考慮した耐震設計法に関する研究
84	橋梁構造	耐震班	マルチハザードを想定した道路橋の耐震設計法に関する研究
85	橋梁構造	耐震班	エネルギー吸収を考慮した道路橋の耐震設計法に関する研究
86	橋梁構造	耐震班	地震後の道路橋損傷の迅速な調査・診断方法に関する研究
87	橋梁構造	耐震班	予防保全を可能とする支承の点検・診断方法に関する研究
88	橋梁構造	耐震班	道路橋の地震による損傷の制御に関する研究
89	橋梁構造	鋼橋班	3次元挙動を考慮した信頼性の高い新設橋の設計手法の開発に関する研究
90	橋梁構造	鋼橋班	鋼橋の予防保全型メンテナンスに向けた高耐久性鋼材を活用した措置技術に関する研究
91	橋梁構造	鋼橋班	鋼橋の予防保全型メンテナンスに向けた点検の高度化・省力化に関する研究
92	橋梁構造	鋼橋班	多様な材料の特性を活用した鋼橋の補修補強設計に関する研究
93	橋梁構造	鋼橋班	環境作用及び持続荷重を受ける鋼部材の耐久性設計の部分係数化に関する研究
94	橋梁構造	鋼橋班	診断 AI システムの構築と診断の信頼性向上に関する研究
95	橋梁構造	コンクリート班	コンクリート橋の塩害に対する予防保全型メンテナンスに関する研究
96	橋梁構造	コンクリート班	RC床版の土砂化に対する予防保全型メンテナンスに関する研究
97	橋梁構造	コンクリート班	コンクリート橋の再劣化防止に向けた効果的な補修補強設計法の構築に関する研究
98	橋梁構造	コンクリート班	コンクリート橋の上部構造全体の安全性を評価した設計法の構築に関する研究
99	材料資源	資源循環担当	下水道材料の劣化状況診断及び劣化防止対策の工法・材料等に関する研究
100	材料資源	資源循環担当	下水道材料の劣化メカニズム及び耐久性評価に関する研究
101	材料資源	資源循環担当	下水処理場における有機資源活用の拡大及び脱炭素化手法に関する研究
102	材料資源	汎用材料担当	未利用資源のコンクリート骨材への有効利用に関する研究
103	材料資源	汎用材料担当	コンクリート工の品質管理省力化に関する研究
104	材料資源	汎用材料担当	コンクリート建造物の予防保全型メンテナンスに関する研究
105	材料資源	汎用材料担当	樋門等河川建造物のメンテナンスサイクル構築に関する研究
106	材料資源	汎用材料担当	防錆性を有するコンクリート補修材料に関する研究
107	材料資源	先端材料・高度化担当	舗装用アスファルトの代替材料に関する研究
108	材料資源	先端材料・高度化担当	社会構造の変化に対応した舗装再生技術に関する研究
109	材料資源	先端材料・高度化担当	舗装の水浸破損対策の工法・材料に関する研究
110	材料資源	先端材料・高度化担当	コンクリート建造物の補修・補強材料に関する研究
111	材料資源	先端材料・高度化担当	橋梁の新しい防食塗料に関する研究
112	材料資源	先端材料・高度化担当	河川護岸鋼矢板のメンテナンス技術に関する研究

募集課題 合計112課題